

冷戦経験の同時代史

—トランスペシフィックな想像力を読みなおす—

Enemies into Friends

Popular Front and Red Fascism in Cold War Arts and Literature

アン・シェリフ（オバーリン大学）

Thinking through Occupied Okinawa

The Challenge of Afro-Asian Solidarity, Then and Now

大西雄一郎（ミネソタ大学）

ディスカッサント：篠田徹（早稲田大学）／辛島理人（神戸大学）／大野光明（日本学術振興会）

2017年3月11日（土） 13時～17時

大阪大学中之島センター 5階 502 講義室

冷戦とは何だったのか

想像上の現実、ひとびとの日常戦争、社会的装置

益田肇（シンガポール国立大学）

冷戦下日本の経験を開く

『「サークルの時代」を読む』を手がかりとして

宇野田尚哉（大阪大学）

ディスカッサント：黒川伊織（大阪産業労働資料館）／キアラ・コマストリ（オックスフォード大学大学院）ほか

総合討論（1日目の報告者も参加なさいます）

2017年3月12日（日） 13時～16時30分

ブリーゼプラザ 8階 803・804号室

報告・討論は、英語または日本語で行います。

当日直接ご参加いただいてもかまいませんが、なるべく事前に gisc.osaka@gmail.com 疎に参加申込をお願いいたします（お名前・ご所属・参加日をお知らせください）。なお、1日目と2日目で会場が異なりますので、お間違えのないよう、ご注意ください。

このワークショップは、サントリー文化財団の研究助成により開催されます。



主催：「大阪大学文学研究科グローバル日本研究クラスター」

問い合わせ先：グローバル日本研究クラスター代表 宇野田尚哉 (unoda@let.osaka-u.ac.jp)

冷戦経験の同時代史

—トランスパシフィックな想像力を読みなおす—

冷戦は、世界が相対立する2つの陣営に分断される経験であると同時に、分断のもとでの脅威や抑圧や暴力に抗する思想や運動が国境を超えて結びつく経験でもありました。たとえば、核戦争の脅威に抗する反核運動が世界的な広がりをもって展開されたという事実は、冷戦がグローバルな経験であったからこそそれに抗する思想や運動も国境を越えてつながっていったという対抗関係を端的に示しているといえるでしょう。本ワークショップの課題は、そのような視座に立ちながら、冷戦下の日本の経験を、東アジア・日本・アメリカを結ぶトランスパシフィックなつながりのなかで再考してみることにほかなりません。

日本にとっての冷戦の経験について考える場合、注意すべきことがいくつかあります。1つ目は、それが、グローバルな冷戦の経験、とりわけ東アジアにおける冷戦の経験と不可分な関係にあるという点です。朝鮮半島の分断や中国大陸の革命との関係を抜きに日本にとっての冷戦の経験について考えることはできません。2つ目は、東アジアの冷戦は、朝鮮戦争とベトナム戦争という2つの巨大な局地的熱戦によって強く枠づけられているという点です。東アジアの冷戦は、ヨーロッパの場合とは異なって、文字通りの意味での冷戦ではなかったということが、ここでのポイントです。3つ目は、東アジアの冷戦にはアメリカが深く関与しており、日本はその拠点であったという点です。このことは、前述した対抗関係が日本において現出する際のあり方を強く規定することになりました。4つ目は、日本における冷戦の経験は、決して均一ではなかったということです。冷戦の経験が、たとえば、本土と沖縄のあいだで、あるいは、日本人と在日朝鮮人のあいだで、異なる意味を持ったことは、言うまでもないでしょう。この点、慎重な検討が求められます。

以上のこと踏まえ、本ワークショップでは、朝鮮戦争期・ベトナム戦争期を関心の中心に据えつつ、東アジアおよびアメリカとの関係にとくに留意しながら、冷戦構造下の対抗関係のなかでどのような国境を越えるつながりが生み出されていったのかを跡づけるとともに、そのような観点から日本における冷戦の経験をより広い文脈のうちに位置づけなおしてみたいと思います。冷戦がグローバルな経験であったことを踏まえて、日本における冷戦の経験をグローバルな文脈のうちに開いていくこと、それが本ワークショップの課題です。

このような課題に取り組むにあたって、外部的な観点から冷戦下の日本の文化や思想や運動について研究しておられる研究者の方々を海外からお招きし、日本国内の研究者と意見交換する機会を設けることにいたしました。今回海外からお招きするのは、*Japan's Cold War: Media, Literature and the Law* (Columbia University Press, 2009) の著者アン・シェリフさん（オバーリン大学）、*Transpacific Antiracism: Afro-Asian Solidarity in Twentieth-Century Black America, Japan, and Okinawa* (New York University Press, 2013) の著者大西雄一郎さん（ミネソタ大学）、*Cold War Crucible: The Korean Conflict and the Postwar World* (Harvard University Press, 2015) の著者益田肇さん（シンガポール国立大学）という、いずれもこの領域で重要な業績をあげておられる方々です。多くの方々が、ご参会くださり、議論の輪に加わってくださることを期待しています。